



会津医療センターから こんにちは！



【12】

看護部
部長 松本 光

『その人の看護をつなぐ』

ある日、私を訪ねてきた人がいるというので、受付に向かいました。ところが、来客者の名前を聞いてもすぐには思い出せません。その時、大きな声で私の名前をチャン付けで呼ぶ声がありました。振り向くと腰の曲がったご婦人が満面の微笑で全速力で走って抱きついてきました。私の人生においてこれほどまでの抱擁は経験したことはありませんでした。

見覚えのある患者の家族でした。「光ちゃんに会いたかった。丈夫でいたのか。息子が世話になったな。わがままな息子をよく面倒みてもらったな。会いたくて娘に連れてきてもらった」と。涙を流しながら私の顔と頭を手でなでながら話してくれました。

90歳を過ぎたご婦人が、息子の最期をみとった私に会いたいと願いこうして再会できたことは、仕事を続けてきてよかったと思える瞬間でした。その後、ご婦人が帰る際には「息子の分も長生きするからな」と誓い、懐から黄色い箱のキャラメルを2箱くれました。

この息子さんとの出会いは、十数年前であったと記憶しています。残念ながら母親より先に旅立ってしまいました。闘病中、私は何度も何度もその患者さんのところに足を運び向き合いました。どうしたら患者に安心してもらえるのか、どうしたら苦しまないで過ごすことができるのか、どうしたらそのつらさを分かってあげられるのか、その人に必要な看護を悩み考えながらの日々であったと思います。現在でもこの思いを大事にしており、当院の看護部では「その人の看護」「切れ目のない看護」の実現を目標にしています。

人はそれぞれ違いがあり、病名が同じでも症状や抱えている悩みなどもそれぞれです。「その人の看護」とは、患者や家族から聴き取った情報、要望をケアに活かして「その人に必要な援助」を実践していくことです。そして、その人にとって必要な看護を切れ目なくつないでいきます。

まだまだ、未熟な看護部ではありますが、地域の皆さまからの指導を受けながら、これからも信頼してもらえる看護を提供していきます。